

一日一生

秋葉希望

ただ生きればよい

「一日一生」酒井雄哉著

比叡山延暦寺に伝わる「千日回峰行」という厳しい修行をご存知だろうか？

7年かけて千日間比叡山中を歩くというこの修行は、挫折したときに自害するための短刀を所持しているそうだ。

この修行の最後に「堂入り」という行がある。9日間不動堂にこもり、断食、断水、不眠、不臥で不動明王の真言を10万回唱えるという。この行を終え、不動堂から出てきた僧侶を偶然テレビで見たことがあった。

命をかけた修行を満行したその人の、まさに「仏」のような顔が胸に焼き付いていた。

それから数年たち、私は乳癌になった。

死と向き合う絶望の日々の中で、この本に出会った。あ那时的僧侶の書かれた本だと知り、購入した。

結婚二ヶ月で伴侶に自殺され、苦悩の果てに40歳を目前にして僧侶になった酒井氏。氏の波乱万丈な人生に比べて、自分の悩みがちっぽけに思えた。

抗癌剤の副作用に苦しみ、生きることを問い続けていた私に、この本は教えてくれた。

「答えなど求めずにただ生きればよい」と。

「どんなひどい目にあっても、時間がたてば必ず、いろいろなことがあったなあと思えるときがある。後になってから意味がわかる」

氏の飾らない、やわらかな口調が心に沁みだ。

「命ある限り生きてみよう」と思った。

あれから4年。

私は癌を克服し、昨夏は念願の比叡山に行くことができた。

根本中堂に立ったとき、生かされていることへの感謝で胸がいっぱいになり涙があふれた。

今、私は著者の教えどおり、一日を一生だと思って生きている。

苦悩の中で生きている人に、ぜひ読んでほしい1冊である。